JF大分
水産おおいた
発行元
大分県漁協
http://www.jf-oita.or.jp/

令和５年度の辞令を交付

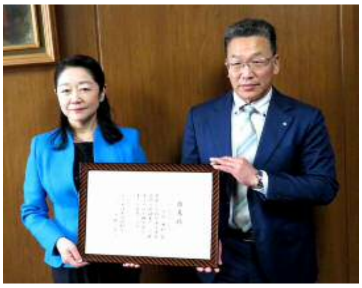
９名を正職員に登用 ～総力で難局に対処を～

新年度を迎えた3日、県漁協は県水産会館において令和5年度の辞令交付式を行った。
正規職員に登用する9名を含む19名に辞令を交付した中根組合長は「兼務辞令が増えるなど職員一人一人の負担が増している。難題の解決に向け、役職員が一体となり総力で取り組もう」と訓示した。

大分県知事に佐藤樹一郎氏

参院補選は白坂亜紀氏当選

第20回統一地方選は9日、道府県知事選や県議選など前半戦が投開票された。大分県知事選は、無所属新人の佐藤樹一郎氏が27万票余りを獲得し初当選した。
また、23日に投開票が行われた参院補選では、自民党新人の白坂亜紀氏が19万6千票余りを獲得し初当選した。



参院補選開票結果

当 196,122 白 坂 亜 紀（自民新）
195,781 吉 田 忠 智（立民元）

白坂亜紀氏の略歴

竹田市出身 56歳
早稲田大学卒業
飲食店経営
豊の国かぼす特命大使
竹田市東京事務所長
株式会社白坂企画代表取締役

知事選開票結果

当 271,400 佐藤樹一郎（無新）
202,623 安　達　澄（無新）

佐藤樹一郎氏の略歴

大分市出身 65歳
東京大学卒業
通商産業省(現 経済産業省)入省
在サン・フランシスコ
　日本国総領事館領事
経済産業省中部経済産業局長
中小企業庁次長
JETRO ニューヨーク事務所長
大分市長(2期)
大分県市長会 会長

県議選

自民、単独過半数へ

県議会議員選挙(定数43)は、無投票で決まった7選挙区を除く9選挙区で争われた。
自民党は、無投票を合わせ公認・推薦候補が現有の21議席を確保。無所属議員の会派入りで単独過半数に達した。

２　面
就任のご挨拶

水産業産出額
362億円
３　面
水研だより

第１回理事会
４　面
被害が多発！
振り込め詐欺
県産魚の日

就任のご挨拶

大分県農林水産部
全国豊かな海づくり大会推進室長
高田 淳史

　本年4月1日付けで大分県の全国豊かな海づくり大会推進室の室長となりました高田です。大分県漁業協同組合から大会招致の要望をいただいて準備が始まった、「第43回全国豊かな海づくり大会～おんせん県おおいた大会～」は、令和6年秋の開催までいよいよ約1年半となりました。県では、今年度より全国豊かな海づくり大会推進室を設置し、私を含め15名体制で準備に取り組んでいきます。

　ご承知の通り、本大会の第1回大会は、昭和56年に当時の皇太子同妃両殿下をお招きして、全国に先駆け、本県の松浦漁港（現在の佐伯市鶴見）で開催されました。"獲る漁業"から"つくり育てる漁業"への転換が図られ、資源管理や種苗放流等の取組が活発化されたほか、環境に配慮した養殖業の振興、藻場保全等の様々な環境保全活動の実施など、現在もそれぞれが発展的に継続され、第1回大会は今の本県水産業にとって非常に大きい役割を果たしました。

　それから40年が経過し、水産業を取り巻く環境は大きく変化していますが、2巡目となる本大会も今後の本県水産業の発展につながる契機となる大会としていかなければなりません。皆さまのご努力で引き継いできた本県の水産業とこの豊かな海を次世代に引継いでいくため、本大会では、「つくり育てる漁業に一層取り組んでいくこと。豊かな自然環境を守っていくことの重要性を広く訴えかけること。四季折々の本県の味力（みりょく）あふれる多様な水産物の消費拡大に取り組むこと。」などを基本理念に掲げ、取り組んでいきます。

　大会は、式典行事を大分市のiichikoグランシアタで、海上歓迎・放流行事を別府港第4埠頭で、また関連するイベントを県下各地で開催する予定です。

　皆さまには、大会本番の各行事への参加・協力だけではなく、大会までの機運醸成活動である、子ども達と一緒に行うリレー放流や水産教室、魚食普及活動、イベントでの大会PR活動などに積極的に参加・協力していただき、本県の漁業や水産物の素晴らしさを伝えていただきたいと思っています。

　大会が本県水産業を盛り上げる契機となるよう、漁業関係者で一丸となり、大会の成功に向けて一緒に頑張って行きましょう！

　どうぞよろしくお願いいたします。

	R3実績	前年増減		R5目標
農林水産業の創出額	**2,260**	**158**	**(+7.5%)**	**2,650**
産出額	**1,860**	**123**	**(+7.1%)**	**2,259**
農業	1,228	20	(+1.7%)	1,534
林業	245	70	(+40.0%)	240
水産業	362	30	(+9.0%)	462
新規需要米等	25	3	(+13.6%)	23
付加価値額	**282**	**31**	**(+12.4%)**	**278**
食品加工	161	4	(+2.5%)	167
木材加工	101	27	(+36.5%)	89
直売所	20	0	(0.0%)	22
交付金等	**118**	**4**	**(+3.5%)**	**113**
直接支払交付金	34	0	(0.0%)	36
米政策交付金	84	4	(+5.0%)	77

大分県水産業産出額
3年度 362億円（昨対30億円増）

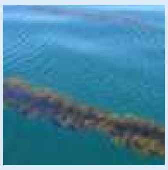
　大分県は21日、令和3年度における農林水産業の創出額を公表した。総額は対前年度158億円増の2260億円と3年ぶりのプラスとなった。

　農業は、コロナ禍による巣ごもり需要の落ち着きにより価格高騰がおさまった園芸において産出額が低下したものの、増頭が進む畜産業における、外食需要の回復に伴う肉用牛価格の上昇等により、産出額は2年連続の増加となった

　林業は、ウッドショックで木材価格が高騰し、木材生産では前年比160%の伸び率で増加、直近20年では最高を記録した。

　水産業は、養殖業においてモジャコの不漁に伴うブリ類単価の向上により前年比109%と直近20年で2番目の伸び率で増加したが、漁船漁業では漁獲量が大幅に減少し、外食需要の回復等による価格上昇を受け産出額全体では前年比5%減にとどまったものの、コロナ前の水準には戻っていない。

水研だより　農林水産研究タイムリー情報

所属名	情報内容	画像、図等	問合せ先
水産研究部	**シロアマダイの種苗生産技術開発を実施中！**(2023.4.14発信) シロアマダイは幻の魚として単価が高く、資源増大の要望が大きい魚です。当研究部では有望な栽培対象魚種と捉え、地元漁業者と連携して成熟親魚の入手にチャレンジしています。シロアマダイは生息水深が深く、産卵可能でかつ生きた状態で入手することが極めて困難なため、雄は漁獲当日の鮮魚から凍結精子を試験的に作成して受精時に使用できるか活力などを測定しています。しかし、雌は生きていなければ採卵できないため、活魚入手の体制構築が大きな課題です。	針の飲み込みや深場からの漁獲で横転・脱腸してしまったシロアマダイ 1尾だけ活魚でとれた雌親魚から採卵している様子	水産研究部 資源増殖チーム
北部水産グループ	**ヒジキ漁が始まりました！**(2023.4.6発信) 国東半島～別府湾沿海の大分県漁協各支店では、天然ヒジキの採取が始まりました。当グループはヒジキ増殖の取組に協力しています。	天日干しの様子(香々地)	北部水産グループ 養殖環境チーム
水産研究部	**モジャコ(ブリ稚魚)資源量を推測するため流れ藻付着生物調査を実施中！**(2023.4.6発信) ブリ養殖用の種苗として、ブリの稚魚を採捕する「モジャコ漁」が解禁されました。水産研究部では調査船「豊洋」で、海面に漂う流れ藻を採取し、流れ藻に集まるモジャコ等の付着状況を調査し、その結果を速報で漁業者に提供しています。	流れ藻の採取 流れ藻と一緒に採取されたモジャコ等	水産研究部 資源増殖チーム
北部水産グループ	**養殖ヒジキ生育 順調！**(2023.4.4発信) 宇佐市長洲、国東市富来浦・治郎丸及び別府市亀川地先で昨年11月から始まった養殖ヒジキは、順調に生育しています。例年より色・つや・生長が良好で、5月上旬に収穫予定です。当グループは養殖の技術支援を行っています。	 養殖ヒジキの生育状況・養殖中の海面の様子	北部水産グループ 養殖環境チーム

○ 本稿は大分県のホームページ4月掲載分から作成しました。→ https://www.pref.oita.jp/site/nourinsuisan/timelyjouhou2017-3.html

県南第2加工場 入札手続き等を承認

新年度第1回理事会開催

5日、新年度の第1回理事会を開催した。

第1号議案「組合員の異動について」では、準組合員への新規及び譲渡加入の計3人について承認した。

第2号議案「固定資産の寄付について」は前回保留となったもので、寄付に至った経緯について説明があり承認した。

第3号議案「第2水産物加工処理施設の建設に向けた入札他手続きについて」では、この事業に係る「建設一式工事」、「工事管理業務」及び「生産設備機器」毎の入札の方式、対象とする業者と選定理由、公告の内容等について承認した。「建設一式工事」については、県内に本店がありA等級で特定建設業の許可を有する73社を対象に一般競争入札を行うこととなり、理事会翌日の6日に公告、28日に入札・開札の運びとなった。

第4号議案「一般社団法人JAバンク・JFマリンバンク相談所への移管に伴う規程類の制定について」及び第5号議案「冷凍・冷蔵保管事業事務手続きの制定について」は原案を承認した。

不良債権の回収に向け研修

協議・報告事項では、農林中金研修会「漁協経営について」を実施した。農林中央金庫福岡支店JFマリンバンク九州担当部長の志野英樹氏が講師となり、①レベル指定について、②不良債権回収について、の2題について学んだ。

①では、自己資本比率が10%を下回るとレベル1指定となり、資産運用制限を受けること等が示された。

②では、自己資本比率を改善する特効薬として「不良債権の回収」が重要との説明があり、当漁協の不良債権比率は高水準且つ上位20社が負債の太宗を占めていることが示された。さらに先行取組県の事例として、組合長をトップに各エリアの理事が責任をもって回収を実践する実効性ある体制構築が必要とされた。

この研修を踏まえ理事間で協議し、当漁協における具体的な取り組みを進めることとした。

5類への移行を前に
コロナ禍の業界事情

政府は27日、新型コロナウイルスについて、感染症法上の「2類相当」の位置付けを、5月8日から季節性インフルエンザと同じ「5類」に引き下げることを最終決定した。社会経済活動の大幅な緩和に踏み出すことになる。

本紙では、感染者が爆発的に増える前の2年9月と第7波が猛威を振るっていた4年9月に「コロナ禍の業界事情」をまとめ、消費のトレンドをお伝えした。今回は、大きな政策転換を前にした最新（5年3月）の業界事情について、同じ出典資料に基づき報告する。

外食

○コロナ規制緩和の動きの中、宴会等需要回復も遅い時間の集客弱い

全国800を数える加盟社を持つ外食産業関連で最大規模の組織（一社）日本フードサービス協会は25日、3月の外食産業市場動向調査結果をまとめた。

【全体概況】

3月は、13日よりマスク着用が個人の判断に委ねられ、コロナ規制の緩和への動きがよりいっそう明確になり、外食全体の売上は118・8%、19年比でも101・5%となった。好調の要因は主に歓送迎会や春休みのシーズンで個人や家族客、中小宴会が増加したことだが、大規模宴会や夜遅い時間帯の集客はまだまだ弱い。

【業態別概況】

・ファーストフード業態

全体売上は110・9%、19年対比では113・2%となった。「洋風」はコロナ全盛期ほどの伸び率ではないが引き続き堅調に推移し、売上108・6%。「和風」は消費意欲の高まりが売り上げを押し上げ112・8%。「麺類」も値上がり基調が消費者に浸透し売上119・2%となった。「持ち帰り米飯／回転寿司」は、年度の変わり目の歓送迎やWBC観戦などでテイクアウト需要が増え、売上108・4%となった。

・ファミリーレストラン業態

全体売上は前年比126・2%、19年比は93・3%となった。年明けからの堅調な流れとともに、コロナ規制の大幅緩和で春休みの家族客が増え、「洋風」は売上124・6%、「和風」は売上125・3%。「中華」は売上120・4%。「焼き肉」は春休みと卒業シーズンで団体客が戻り、売上は139・7%と大幅に増加した。

・パブ・居酒屋業態

酒類の提供制限という“足かせ”がはずれて以来、個人客やインバウンド需要の堅調が続き、送迎会シーズンの中小宴会が回復傾向で、売上は189・4%に跳ね上がった。だが、コロナ前のような大規模宴会は戻りが鈍く、二次会需要もほぼ見られず、店舗数自体もコロナ前の70%弱にとどまっており、19年比では売上64・5%となっている。

・ディナーレストラン業態

中規模の歓送迎会およびインバウンド客と個人客の増加が売上と客単価を下支えし、売上は136・2%となったが、大口の法人利用はまだ期待できず、19年比では売上89・1%となっている。

・喫茶業態

マスクの着用が個人判断に委ねられるなどコロナの規制緩和が一段と進み、客足は回復傾向で売上は127・5%となった。

食品スーパー

○自粛生活の緩和による家庭内食品需要低下と節約志向による内食、中食需要の高まりが混在、値上げにより売上高は増

全国のスーパーマーケット業界3団体407社が加盟する（一社）全国スーパーマーケット協会は24日、3月の実績をまとめた。

3団体加盟270社による販売統計調査における、3月の総売上高前年同月比（既存店ベース）は100・6%となり、2か月ぶりに前年同月を超過した。仕入れ価格高騰による販売価格の上昇が続いており、買い上げ点数の減少を一品単価の上昇で販売を底上げする状況が続いている。自粛生活の緩和による家庭内食品需要低下と節約志向による内食、中食需要の高まりが混在する状況となっている。高く推移した気温の影響でアイスや飲料など涼味系商材が好調となった。光熱費の上昇や食用油などの高騰による調理敬遠、行楽、花見関連需要を追い風に惣菜部門が好調となった。パン類値上げや鶏卵の価格高騰、冷凍食品が好調な日配カテゴリーも好調になった。

コンビニ

○来店客数、売上高、平均客単価ともに増続く

（一社）日本フランチャイズチェーン協会は20日、3月度のコンビニエンスストア統計調査月報を発表した。全体的動向としては、好天に恵まれたことや、4年ぶりに行動制限がなく、お花見等の行楽需要を受け、おにぎり、揚げ物、アイス、ソフトドリンク、アルコール飲料等が好調に推移し、全店・既存店ともに売上高が前年を上回る結果となった。

店舗売上高は、全店は16ヶ月連続のプラス・既存店は13ヶ月連続のプラス。来店客数は、全店・既存店はともに3ヶ月連続のプラス。平均客単価は、全店・既存店はともに6ヶ月連続のプラス。（注・・全店…調査月における営業中の店舗、既存店…調査月において、当月と前年同月でともに営業中の店舗）

生協・宅配

○生協は店舗前年超えも宅配は前年割れ、伸長した宅配便業界は「2024年問題」に直面

日本生活協同組合連合会は21日、全国64主要地域生協の3月度の供給状況（売上高）をまとめた。総供給高は、前年比98・2%で2カ月連続の前年割れとなった。

店舗は前年比100・6%で前年超え。物価高騰の影響で買い控えの傾向は続いているものの、客数は前年超えとなり、部門別では畜産、総菜、日配品が前年超えだった。

宅配は前年比97・5%で前年割れ。先月度と比べ回復傾向ではあるものの、利用人数が落ち込んでいることなどが影響した。部門別では農産品と住関・衣料品の落ち込みが大きい。

一方、宅配便業界はコロナ禍の巣ごもり需要等を背景に伸びた。国土交通省によると、21年度の宅配便荷物数（自社配送分を除く）は前年度比2・4%増の49億5323万個で、7年連続で過去最高を更新した。航空便などを除くトラック運送による荷物数は、同2%増の48億8206万個だった。ヤマト運輸の「宅急便」、佐川急便の「飛脚宅配便」、日本郵便の「ゆうパック」の上位3便で全体の94・8%を占める。

置き配や受け取る場所の広がりなどで、ドライバーの配達効率も上がっている一方、ドライバーなどの人手不足は深刻。さらに、2024年4月から働き方改革関連法により自動車運転業務の時間外労働時間に上限が設けられる「2024年問題」により、物流業界の売上減少やドライバーの収入減少などが懸念されている。ヤマトと佐川が値上げにより対応を急いでいる。なお、「2024年問題」では、長時間の荷待ちの解消など荷主に対する規制強化も懸念される。

4月を彩った春の花々

ネモフィラ（るるパーク）

白梅・紅梅（南立石公園）

しだれ桜（長湯）

ふじ（西寒多神社）

エンゼルトランペット（佐野植物園温室）

アプリコットキャンディ（大神ファーム）

4月の「県産魚の日」は第4金曜日の28日、おさかなランド明野店、わさだ店の2店舗で開催。鶴見産のサザエとマダイを特売した。コロナ禍で試食販売は控えたが、千円以上お買い上げの先着50名様に豪華賞品が当たる抽選会を実施し、盛り上がった。お客様からは「県産魚の日は新鮮で安い魚が手に入る」、「楽しみにしている」などの声をいただいた。

(この項目は県漁業管理課の要請を受けて掲載しています)

—大分県安全・安心まちづくり推進本部—
TEL 097—534—2038

編集後記

4月は統一地方選漬けの日々であった。前半戦では新しい知事が決まり、県議が改選された。後半戦では参院補選が全国的に注目されヒートアップし、開票率99%でもなかなか当確が出ない僅差となった。当漁協にも全漁連を通じて何人もの国会議員が来組・挨拶し、浜も回った。佐賀関以南を同行した代議士は大学の20年も後輩だったが、すでに4期目。若い人の時代になったと実感する。それどころか、気付けば、首相も知事も市長も年下である。平成生まれの爽やかな県議の誕生も話題になった。

漁業を取り巻く状況は厳しさを増している。水産業が健全な産業として継承されるためには、行政の指導・支援が不可欠だ。漁船が山に登ることがないよう、選ばれた若い皆さんの舵取り、活躍に期待したい。

サカナをたべれば幸福が見えてくる

ウオメシ

今回のウオメシは、私用で立ち寄った「道の駅やよい」のお食事処から「炙り本まぐろ丼」が登場。

佐伯市は水産業が盛んで、公私ともに行く機会が多い。「道の駅やよい」には甘酒を買いに行く「麹の森」とセットで訪れた。産直の野菜を買い込み、「番匠おさかな館」で淡水魚を眺めたついでに、お食事処を利用してみた。

「炙り本まぐろ丼」、これは当りだった。地元佐伯湾で養殖されるクロマグロの炙りとネギトロが贅沢に盛られ、絶妙の食感を演出。これで850円はお得だ。

掲載にあたりHPを確認したところ、「さいき春の本まぐろフェア」は4月16日までとのことで、次回を乞うご期待。なお、佐伯海産が運営しており、その他の海鮮料理も試す価値がありそう。